

# 大祓の本義

國民の罪穢を祓い、福善を求むる儀

改めて云うまでもなく、大嘗祭の諸儀は、鎮祭、御禊、大祓、鎮魂といった、宮殿宮地及びその環境から日本全土の浄化、神化の行事と、天皇陛下及び祭に奉仕する人々の潔斎、即ち神人合一不二の境地を開くことにある。而してこの境地が祭の精神の根本をなし、この精神が各種の儀礼、礼式となって発現され、且つこの精神が発露されることによつて祭の本旨が全う出来るのである。

斯の如く、天皇御鎮魂には、御禊、大祓が不可欠重要である。大祓、正しくは「オオハラヘ」と訓む。これは國民が知らず識らずに冒した罪穢を祓い、除いて福善を求むる儀式である。恒例としては、毎年六月と十二月の晦日に行われるものであるが、御大禮の大嘗祭、神宮奉幣使発遣、天災地変の後などにも臨時に行われるのである。宮中に於ては、賢所前庭の神楽舎を以て祓所にあてられ、式次第としては先ず節折の儀が行われ、次に大祓の儀が行われるのである。

## 節折の儀

節折の儀は、この日諸員参列、天皇陛下には御小直衣を召されて出御遊ばされる、而して侍従は禍悪を去るといふ意味をもつ白絹をもつて造られた荒世の御服を供し奉り、天皇陛下が御服に御息氣をかけて返へし給へば、次に御麻を供し奉り、陛下御親らこの御麻をお取り遊ばされ、御體を撫でられて返へし給う、次に供し奉る竹をもつて、天皇陛下は玉體の御長を量られる。次に荒世の壺を供し奉り、陛下これを返へし給へば、これを以て荒世の儀が終る。次に福善を進める意味の紅絹をもつて造られた和世の御服を供し奉り、和世の儀に移る。この御儀は荒世の儀式と同じで、これを終へて陛下が入御遊ばされると掌典は御願物を取つて大河へ参向する。

この竹の節、即ち節は、日本語では「ヨ」であり、この竹の節で御長を量るといふことは、單なる身長をはかるのではなく、その真義は「オオミタマフリ」（振魂）であつて、人間の五体に有する三六〇の関節を悉く振り動かす、身体の機能を調和させ、健康を保つようにする儀式である。この節折のなかで行われる荒世、和世の御儀から出発することによつて、大祓の完成を得るのである。

## 荒世及び和世の意義

この荒世の御儀は凶解除であり、和世の御儀は吉解除であり、而して凶解除は荒魂の祓、即ち肉体の祓であり、吉解除は和魂の祓、即ち精神の祓である。そしてこの荒世、和世の「世」とは表であつて裏は節である。人間の世の中にも、國家の歴史にも裏面から云えば節がある。萬世一系の天皇の御世を表面だとすれば、踐祚、御大禮は重大なる節目であり、萬世一系を裏付ける天津靈嗣と天津穗嗣である。

又、現在の世の中に於ても、「近ごろは」といふことを「当節は」と云つてゐるが、これは單なる過去と未来をつなぐ時間的中間の現在ではなく、過去の罪穢を祓い、より福善を進め、以て未来につなぐという節目に當る節目としての意義を表せる言葉である。

斯の如く人の世の中の罪穢を祓い除き、福善を進めため、裏面に於ける節目の働きは不可欠重要であり、この節折の儀の延長として大祓の儀が行われることによつて、大いなる日本民族生命の更新が可能となるのである。故にその根本義は、天皇陛下の御身の祓であると同時に、御精神の祓である。而して國家國民生命の中心全體者にまします、天皇陛下の御祓は、全國民の罪穢を背負つて祓うという、「負い祓い」即ち大祓であり、同時に日本全國各地域の神社で行われる祓なるが故に、大祓と称せられるのである。

## 神と人と穀物との生命關係

我が國は皇祖天照大御神が高天原に於て作られた稲穂を天孫「ニギノミコト」にお授けになられてより、稲作を中心とする農耕を以て日本人の生活の基本として来た。而してこの根本精神は、大御神が高天原に於て神々と共に行われていた、新嘗を聞こし召す秋のお祭に表わされ、神人不二一体なる深き、高き稲作文化を培養して来たのである。

古来日本人は自然のがあるがままなる眞実を神の顕現として信じ、四季を通じて変化する自然の営みのすべてを神の御働きの発現なりと意識したのである。農耕は水利や天候などの自然条件に左右されるので、祖先たちは太陽を中心とする天地自然萬有生命の本体本質を成す神の御心のままに随つて作業することに努力して来たのである。

又、祖先たちは、秋に收穫された稲を始め穀物は、すべて神靈の発現せるものとして大切にしたいだき、更にこれを食することによつて神靈が人間の生命化し、神人一体なる生命体をなすものと信じたのである。そして秋に收穫された種籾が年を越し、再び豊かな稲穂を稔らせ、これが子々孫々への永久なる生命の発展を保障してくれるものと信じたのである。

故に農耕作業は、皇祖天照大御神を始め天神地祇への感謝報恩と豊作への祈りをこめ、神の御心に合一し、神の御心に適うよう努力し、季節毎に行う節目の作業も、すべて神人合一不二の境地に立つてなす祭事として齎行したのである。